

[年度] 平成 27 年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] ウメの早期成園化技術の開発

[担当機関名] 果樹試験場うめ研究所

[連絡先] 0739-74-3780

[専門分野] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

ウメ主産地では経済樹齢とされる 25 年生以上の老木が増加しており、計画的な改植を進めることが課題となっているが、収益が見込めるまで 7 年程度を要することから、改植が進んでいません。そこで、これまでの研究で開発した自家和合性品種‘NK14’の早期成園化樹形（図 1）、春期の摘心栽培（図 2）などの生産安定・省力多収技術を活用し、若木期における早期多収栽培法を明らかにするとともに、‘NK14’は幼木から若木期における必要な施肥量が把握されていないことから、適正施肥量を明らかにしました。

[研究の成果]

1. ‘NK14’主幹形は 3 年生から着果が始まり、1 樹当たり収量は 4 年生で慣行（開心自然形）の約 1.6 倍、5 年生で約 2.1 倍、6 年生で約 3.1 倍となり、7 年生では対照の収量が増加したため約 1.3 倍となります。5 年間（3～7 年生）の 1 樹当たり累積収量は 60.4kg であり、慣行に比べ約 1.8 倍多くなります（図 3）。

10a 当たりの累積収量による試算では、主幹形（128 本/10a）が慣行（30 本/10a）に比べ、約 7.7 倍多い収量となります。（図 4）。

2. ‘南高’に摘心処理を 7～10 年生にかけて継続的に実施すると、4 年間の 1 樹当たりにおける累積収量は慣行に比べ約 1.7 倍多くなります（図 5）。

3. 青採り果における‘NK14’の幼木から若木樹の 1 樹当たりの施肥量について、‘南高’の年間窒素基準施肥量（表 1）を施用した結果、8 月の樹体栄養は概ね適正範囲内です（図 6）。



図 1 ‘NK14’ 主幹形



図 2 ‘南高’ 摘心処理

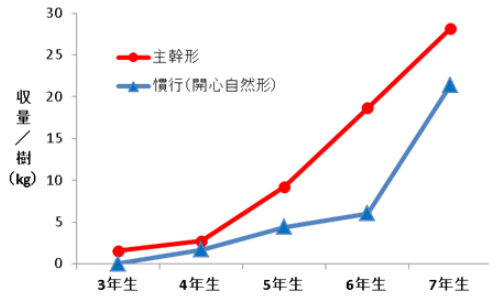


図3 'NK14' 樹形別収量 (kg/樹)

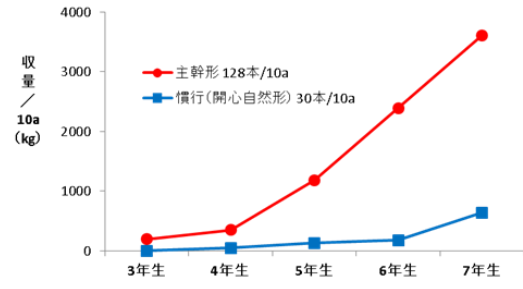


図4 'NK14' 樹形別収量 (kg/10a)

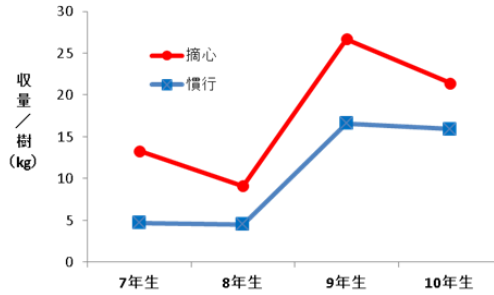


図5 '南高' 摘心樹収量 (kg/樹)

表1 '南高' 幼木から若木樹の年間窒素基準施用量 (単位: g/樹)

	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
N施肥量	140	200	240	280	350	400	500

注)ライシメータによる試験結果により算出

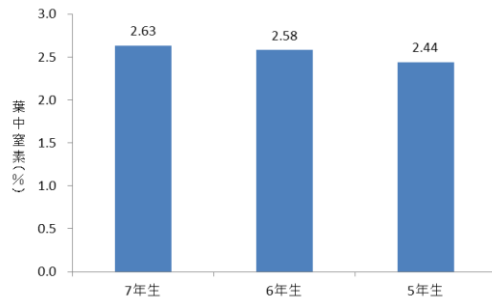


図6 'NK14' 樹齢別の8月葉中窒素含有率

注) 1 樹当たりの年間窒素施用量は、表1より7年生は350g、6年生は280g、5年生は240g 施用。

8月の適正葉中窒素含有率は2.5%以上。

[成果のポイントと活用]

1. 'NK14' の早期成園化には、若木期における1 樹当たりの収量が多く、計画密植が可能な主幹形が適しています。
2. '南高' 幼木樹の早期からの結実安定には摘心処理が効果的です。
3. 'NK14' 幼木から若木樹の1 樹当たりの施肥量は、同樹齢の'南高' と同じ基準施肥量を施用するのが適当です。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業）

研究期間：平成25～27年

研究担当者：竹中正好、行森 啓、中面 慶

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可